ミニワークショップの進め方

平成 28 年３月

◇ミニワークショップとは

少人数で行うワークショップ型研究協議のこと。

◇ミニワークショップのメリットー少人数で！短時間で！気軽に！ー

〇負担感が少なく、教員の主体的な研修が期待できる。
〇短時間で実施するため、時間を有効に使える。
〇授業公開や研究協議の機会が増え、より多くの教員の参加が可能となる。

→**全校体制で取り組む意識が高まる。**

◇ミニワークショップの活用例

・一人１授業等で、授業者と参観した教員が参加し実施する。
・研究協議の時間確保や全員の参加が難しい場合に、小グループのメンバー（学年や教科ごと）で集まって実施する。
・全校を対象とした研究授業前に、授業の改善を図る目的で同学年内や同じ教科担当内で実施する。

◇小グループ分けの例　※校内研修組織を基にするとよい。

A　担当学年や教科が同じ同質のグループ
B　担当学年や教科が異なる異質のグループ

◇ミニワークショップの進行例（３０分バージョン）

内　　容	時間（分）
①　授業の気付きを付箋に記入する。	5
②　簡潔に説明しながら付箋をシートに貼る。	5
③　付箋を関連するもので整理する。→付箋のまとまりに見出しを付ける。→付箋のまとまり同士を矢印等で関連付け、構造化する。**※課題・改善策を中心に**	10
④　「今後の授業改善のポイント」を記入する。	5
⑤　一人一言ずつ振り返りを述べる。	5

◇よりよいミニワークショップにするには

・授業参観のときも、ワークショップのときも常に研究主題や研究の視点を意識する。
・進め方（**参考１**）や使用するシート（**参考２**）について共通理解を図る。
・付箋、サインペン、模造紙等の道具は、決まった場所に保管しておく。
・30 分程度で実施することとし、予定した時間は厳守する。
・終了後、研修主任に報告する（**参考３**）とともに成果物（実物、画像、データ等）の共有化を図る。
・ファシリテーターを輪番とすると、教員一人ひとりのスキルアップを図ることができる。
・１回ごとに改善を図り、学校独自の進め方やシートを開発するとよい。

（参考１）

ミニワークショップの進め方

準備物
□　付箋　□　サインペン（黒）　□　模造紙（シート）　□フェルトペン（多色）
□　タイマー　□　報告書

１　付箋の記入（５分）

〇研究主題や研究の視点に関わることを中心に書きましょう。
〇付箋への記入は、準備したサインペンを使いましょう。
〇体言止めではなく、文で書きましょう。

２　付箋の貼付け（５分）

〇簡潔に説明しながらシートに貼りましょう。
〇１枚貼ったら、次に隣の人が１枚貼っていきます。一人が一度にたくさんの付箋を貼らないようにしましょう。
※自分と同様の意見が貼られたときは、順番に関わらず貼ります。

３　付箋の集約・関係付け（１０分）

〇関連する付箋を見付け、まとまりをつくりましょう。
〇付箋のまとまりの内容を表す見出しをシートに書きましょう。
〇まとまり同士の関係を表す線や矢印をシートに描きましょう。

４　「今後の授業改善のポイント」の記入（５分）

〇研究主題や研究の視点を踏まえて「今後の授業改善のポイント」をシートに書きましょう。

５　振り返り（５分）

〇一人ずつ、１分程度で感想等を述べましょう。

※代表者は、報告書を作成し、研修主任まで提出する。
※シート（成果物）は、所定の場所に掲示する。

（参考２－１）シートの例①

月　　日（　　）参加者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

研究主題「○○○○○」

月　　日（　　）○校時　教科・単元名等

研究の視点「△△△△△」

３色（よさ…水色、課題…ピンク色、改善策…黄色）の付箋を使い、ＫＪ法的手法で意見を集約する。

今後の授業改善のポイント〔　　〕

（参考２－２）シートの例②

月　　日（　　）参加者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

研究主題「○○○○○」

月　　日（　　）○校時　教科・単元名等

	△△△△△（研究の視点）	その他
よさ		
課題		

今後の授業改善のポイント

※シートは、模造紙の１/２程度でもよい。

※シートは長期休業中等にみんなで作成しておくと、すぐにワークショップが行える。
　また、シートの使い方についての共通理解も図れる。

※短時間での焦点化した協議になるよう、研究の視点を一つに絞り、枠を広くとる。

（参考３）報告書の例

ミニワークショップ報告書

記入者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

研究主題「○○○○○」

授業日時　　月　　日（　　）　　校時

教科・単元名等	
指導者	
学級	年　　組

ミニワークショップ実施日　　月　　日（　　）

参加者	

今後の授業改善のポイント

気付き・感想（授業や協議内容について・ワークショップの進め方について等）